J. C. O. S. M

Vol. 21, No. 2 (Mar. 1991)

全科協ニュース

平成3年3月1日発行
(通巻第118号)
全国科学博物館協議会
東京都台東区上野公園
国立科学博物館内
〒110
Tel. 03-3822-0111(大代)
Fax. 03-3824-3298

おもな内容：◇全科協北米科学系博物館研修報告(6)
◇ ミュージアムショップ見て歩る記　高橋 理一
◇ 米国博物館のプラネタリウムを見て　後藤 正邦

ミュージアムショップ見て歩る記

(株)ココロ　開発営業部　高　橋　理　一

どこの科学博物館に入館しても様々な興味深い展示物に目を奪われてしまうのであるが，好奇心旺盛な私にとってミュージアムショップも楽しみのひとつとして，見逃せないものであった。ここでは，全科協の海外視察で見学したミュージアムショップについて報告をする。

まずは，ニューヨークのアメリカ自然史博物館を訪問。ミュージアムショップは，大人用と子供用に分かれていた。子供用ショップでは，恐竜や動物の玩具・絵本などから楽しい飾り物までが，大きな部屋に数多く並んでいる。もちろん，子供達はひとつひとつの商品を手に取り，気に入った物を選んでいる。商品の陳列棚は上下2段になっていて，下の段には主に幼児用玩具が並べられ，上の段は少し高い年齢用の商品が並んでいたことが印象的であった。このミュージアムショップは地下鉄連絡口のすぐ横に設置されているため，利用者を増すことになっていると思った。

一方大人用ショップは一階と中二階のコンパクトなスペースを有効に使用していた。一階では博物館で展示してある世界各国の民族資料や楽器などと関連した物が商品として販売されている。例えばインドのタブラ（太鼓）から中国製の仏像のミニチュア，そして化石などまで。展示するからには販売もするぞ……と言えそうな物販にかける情熱が感じられた。また，中二階では各種の書物や関連ビデオソフト，ポスターなど，その種類の多さには圧倒された。

ワシントンDCでは，国立航空宇宙博物館，アメリカ歴史博物館，自然史博物館を見学した。どのミュージアムショップも大きなスペースを持っているが，広い空間の割にかえって商品種類が少なく感じた。

航空宇宙博物館のショップでは，当然航空と宇宙に関する商品が数多く並んでいる。望遠鏡から飛行機のプラモデル，ブーメランなど科学的な物を中心に扱っていたが，一ケ所のショップ内で同じ商品を何度も見かけた。クリスマスシーズンに合わせてショップ内の装飾に気を使っていたのが印象的であった。

カナダのトロントにある王立オンタリオ博物館では，開催されていた特別展のために常設の2ケ所のほかに，特設のショップがあった。特設といってもそれなりのスペースを持っていて，いわゆるアフリカやアジア地域の民族楽器，お面など飾り物を主に販売していた。感心した事は，ショップの演出が上手い事。古びた木の柱を数本組んだだけで，何となくアフリカ的な雰囲気を出してしまうところなど興味深いと思った。常設のミュージア

アメリカ自然史博物館

ムショップも，品数豊富で，バラエティにとんだ商品が楽しいムードをつくり出していた。

このほかの博物館にも，いろいろと学ぶ事が多かった。特に強い印象が残っているので，サンフランシスコのエクスプロラトリウムのショップについて報告したい。

ここの展示物は出発前に情報を得ていたので安心していたのに，実際に訪問したら予想以上の迫力に感激!!「これだけ凝った展示物を制作出来るなら，ショップの方もきっと楽しいだろう」と思いながら足を進めると，思った通りさまざまな凝った商品が並んでいた。

訳のわからないゴムの毛の生えたボール，空ビンをつないで水時計が作れる円筒，美しい音を奏でる変った風鈴などなど，科学と遊びが合体した様なバラエティグッズ店といった感じで，日本国内では見た事も無い商品が山程あった。どこから見たら良いかと迷っていると，突然，私の両肩に手をかけて誰かが話しかけてきた。（もちろん英語で。）

驚いてふり返ると若い女性。少し前にレジの横で見かけたので，ここのボランティアの販売員であろう事は，すぐにわかった。最初は妙になれなれしいので困惑したが，雰囲気に乗せられて話してみたら次の様な事であった。

①変わった商品や使い方のわからないおもちゃが多いので迷っている客に気楽に説明をしている。

②エクスプレーナー（展示解説者）が店員をやる事もあり，店のムードを明るくしている。

③盗難にも気を使っているが，ボランティアと客とのコミュニケーションが，楽しくなる事によって，心配も少なくなる。

この様なちょっとした事から大切な事を学んだ気がした。見学時間が少なくなっていたのにも関わらず，ショップをくまなく見たおかげで，掘り出し物と言えそうな土産を買う事が出来た。「虫笛」と言えばいいと思う。最初は私自身，使い方がわからなかったので，先の女性に聞いてみたけれど彼女もわからない様であった。試行錯誤の末，たまたま振回したら不思議な音がしたので，虫笛だと分った。

国立航空宇宙博物館

国立自然史博物館

いろいろなショップを視察したが，こんな変った商品まで取扱っている事実を含め，アメリカの博物館が利用者に対する気配りや購買者のニーズに応じる熱心さを改めて痛感した。

最後に私なりの感想を記す。子供達の興味や好奇心は世界共通だと思う。しかも，その興味を文化や教育に結びつける接点に博物館が大活躍しているという現実を見た。日本でも，今後大人と子供が遊びながら一緒に学べる博物館が多くなる事を期待している。

そしてそんな施設の為に私自身の経験が生かせれば，素晴らしいと思う。

王立オンタリオ博物館

エクスプロラトリウムの「虫笛」

米国博物館のプラネタリウムを見て

新潟県立自然科学館　後　藤　正　邦

好運にも全科協米国科学系博物館視察研修旅行に参加する機会を得て，担当している自然・天文系の展示物を中心に視察研修した。

プラネタリウムを備えた5館のうち4館は投影を見ることができたので，その概要と感想を記してみたい。

今回見たプラネタリウムは，アメリカ自然史博物館，国立航空宇宙博物館，デンバー自然史博物館，カリフォルニア科学アカデミーの4館である。もう1館，王立オンタリオ博物館は投影時間が午後3時1回だけのため見ることができなかったが，周辺の展示物だけは館員の好意で見ることができた。

プラネタリウムの概要

(1)　投影方法

カリフォルニア科学アカデミーはオペレーターが手動で装置を動かしながら解説をするマニュアル投影方式。他の3館はオート投影と言って，全てコンピューターで制御され，ボタンを押せば星座解説から神話やトピックスなど自動的に演出する方式であった。日本でも最近建設された館はオート投影方式をとっているところが多い。

(2)　料金

国立航空宇宙博物館は入館無料，プラネタリウムとＩＭＡＸ劇場（全天周映像）のみ入場料をとっている。他の館は入館料，入場料ともに必要で2～4ドルであった。

(3)　収容人数

300～400人，ドーム径は20m前後とほぼどの館も同じである。

(4)　投影内容

その月の星座解説に始まり，神話そして天体に関する話題という構成である。天文の話題は12月ということでどこもクリスマスにちなんだものを取り上げていた。

投影中に使われたスライドの枚数は日本の館より少なかった。特にマニュアル投影のカリフォルニア科学アカデミーではプラネタリウム本体を使っての星座や星雲・星団・惑星についての解説が主で，スライドは木星とM31（アンドロメダ大星雲）が各2枚だけと極端に少なかった。しかし，我々がいることを知って「M45は日本では，すばると呼び……」の説明を加えてくれたり，幼児

（写真右上から順に）
- カリフォルニア科学アカデミー
- 国立航空宇宙博物館
- デンバー自然史博物館のコンソールボックス
- デンバー自然史博物館

も楽しく見られるように言葉に独特のアクセントをつけ，スライドが4枚にもかかわらずたいへん楽しい語り口でオート投影にはない温か味のある投影であった。

(5)　1日の投影回数

国立航空宇宙博物館の10回を除いて，他の館では平日が1～3回，金・土・日には3～4回であった。

(6)　装置

ドームの周囲に風景などを映し出すパノラマ投影機はスクリーン下部や裏にセットされ，スクリーン全体をおおう迫力ある映像を映し出していた。

特に目新しい装置・演出はみられなかったが，映像はきれいで，音響設備もよく，クリヤーな音で聞き易かった。

(7)　その他

オート投影館では，投影中もＥＸＩＴ（出口）の表示は点灯されていたが，暗赤色の照明だったのでほとんど投影に支障はなかった。カリフォルニア科学アカデミーではＥＸＩＴ表示は消していたが，投影中も照明を全部は消さず薄暗い程度であった。

また，プラネタリウム施設とは別にＩＭＡＸやレーザーショウなどの大型映像施設を備えていて，プラネタリウムよりずっと人を集めていた。

プラネタリウムドーム周辺の展示物について

どの館にもドーム周辺には，天文に関する展示物があったが，天体運行模型や天体写真だけで他の展示場から見ると少し寂しい感じがした。しかし，オンタリオ博物館では縦3ｍ×横7ｍ位の9面マルチスクリーン劇場（収容数100人）があり，プラネタリウムソフト制作についてたいへん分かりやすい解説をしていた。これはプラネタリウムをより親しみやすくする効果的な展示物だと思った。また，デンバー自然史博物館ではドーム前に天文関係の物だけを扱うミュージアムショップがあって，きれいなウィドマンシュテッテン模様の見られる隕鉄や口径10～20 cm 級の望遠鏡などを売っていた。

入場者について

入場者そのものが少ない時期なのかプラネタリウムへの入場者も少なく，そのほとんどが大人と幼児であった。小・中学生位の年代の子供は他の展示場にはいるのだがプラネタリウムでは見かけなかった。ただし，国立航空宇宙博物館は別格でかなりの入館者があり，特にＩＭＡＸにはすごい行列であった。しかしながら，プラネタリウムへの入場者は少なく5割以下の入りであった。

また，ドーム内では若い母親がまだよくわからないのではないかと思われる幼児に熱心に説明をしていた。このような光景は他の展示場でもよく見られたが，これが将来の博物館に対する良き理解者・良き観覧態度をつくっているのだろうと思った。

王立オンタリオ博物館

博物館におけるプラネタリウムの位置づけについて

日本では，プラネタリウムは集客力のある展示の一つであり，職員構成や予算面でもかなり重点をおかれているが，今回見た4館では入場者が行列をつくっているところはなく，他の展示物を見る人より少ない位であった。館の説明でもＩＭＡＸなどの大型映像にふれてもプラネタリウムの話はなく，聞いても詳しい説明はなかった。

アメリカ自然史博物館のように，かなりの予算を組んでジョージ・ルーカスなどの有名な監督にたのんで番組をつくったり，コンピューターを導入するなど，各館のプラネタリウムに対する努力がされているのではあるが。

見た感じだけで即断はできないが，特に力を入れているようにはみえず，他の展示の流れから少し遅れた存在のように見えて寂しく思うとともに，今後のプラネタリウムを考えると不安を感じた。

最後にプラネタリウム以外の面で参考になったことを記してまとめとします。

どの館も展示更新には積極的に取り組んでいたが，基本的な点で我々との違いがみられた。テーマの決め方やスタッフの構成，予算などいろいろあるが展示物の対象年齢についても考え方がかなり違っていた。

我々は展示物を造る際，小学校高学年位の子供がある程度わかるようにと考える。（実際はどの年代にもわかりにくい展示となっているかも知れないと思うのだが）

米国では，説明を極力省くことによって対象年齢を考えないでいると言う。各年齢なりに理解できればいい，わからなくても何だろうと疑問を持ってくれるだけでいい（オンタリオ科学センター）。説明文はより専門的なことを知りたい人のためである（国立自然史博物館）。

そしてデザイナーを中心に十分な時間をかけて展示物の色や配置に工夫をこらし誰でもが興味や疑問をもってくれるように考えている。

また，スタッフやボランティア，恐竜化石のような実物重視の展示，大自然を思わせるジオラマの展示手法など，とてもすぐにはまねることのできないすばらしいものであったが，よい刺激として今後に生かしていきたい。